

学校教育目標	自分で考え、判断し、行動する力の育成をめざして				
	～3つの力を伸ばします～ ・主体性 ・協働力 ・コミュニケーション力				
学校概要	創立 45 周年	学校長 山口 毅	副校長 谷澤 直人	3 学期制	一般学級: 13 個別支援学級: 4
	児童生徒数: 463 人		主な関係校: 羽沢小学校 菅田の丘小学校		

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	菅田中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
自分で考え、判断し、行動する力	菅田中学校 羽沢小学校 菅田の丘小学校	<p>〈習得した知識を活用して課題解決できる子〉 〈互いに表現し合い、自分の考えを深める子〉 〈自ら行動し、粘り強く取り組む子〉</p> <p>○小中職員が一同に会する研修会等を実施し、小中の理解を深める。 ○「9年間で育てる子ども像」を見据えた授業研究会を実施し、小中の連携を深める。 ○菅田中ブロックの特色を生かした独自教科の創設に向けて研究を推進する。</p>

中期取組目標	○教職員は保護者・地域・小学校と連携・協働し、「チーム菅田」で学校教育目標実現に向けて取り組みます。
	<p>・生徒一人ひとりの資質・能力育成の視点で、授業改善をはじめこれまで慣行として行われてきたことも見直し、カリキュラムマネジメントを推進します。</p> <p>・学校でしか学べないこと、生徒同士で学ぶことを大切に、協働的な学び、対話的な学びをファシリテートします。</p> <p>・客観的データを活用し、生徒一人ひとりが自分の力をメタ認知し、主体的に学ぶ姿勢を目指して取り組みます。</p> <p>・人とのつながりを重視し、体験的な活動の充実を図り、仲間や地域・社会と積極的に関わろうとする生徒の育成を図ります。</p>

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	<p>①併設型小中学校であることを生かし、9年間を見通した学習指導の充実を図るための授業研究交流の機会を年2～3回設定する。</p> <p>②資質・能力の育成を目指し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善を進めるため、校内授業研究会や授業についての教職員の相互評価の機会を年2～3回設定する。</p> <p>③学習評価の妥当性、信頼性をより高めるため、単元の学習計画の作成、授業実践、評価、改善のPDCAサイクルを確立する。</p>
担当	研修・研究係/教育課程委員会	
徳	豊かな心	<p>①「考え、議論する道徳」の授業の充実を図るため、年間指導計画に基づいて学年毎に指導案を検討し授業を実施する。</p> <p>②「人との関わり」に重点を置いた道徳教育を全校で推進するため、学校行事や校外学習等における体験的な活動の充実を図る年間指導計画・別業・「『豊かな心の育成』プラン」を作成し、実践・検証を行う。</p>
担当	道徳・人権・国際理解係/総合部	
体	健康教育	<p>①単元や種目に適した体力や、身体の操作方法を身に付けることができるよう補強運動等の検討を行い、実施する。</p> <p>②自発的に運動の楽しさを味わいながら、健康の増進や体力の向上を図るため、昼休み等を活用して運動を行う時間と機会を設定する。</p> <p>③日常生活におけるバランスのとれた食生活の実践を進めるため、保健体育科や技術・家庭科等において食育に関する知識を深化させる学習を行う。</p>
担当	体育科/保健安全指導部/食育推進委員会	
公開	キャリア教育	<p>①他者との協働の大切さを学び、新たな視点を持つことで他者と協働的に問題に向かう態度を育てるために職業講座や職場体験学習を実施する。</p> <p>②学習や生活の見通しを立て学んだことを振り返りながら、新たな意欲につなげ将来の生き方を考えるためにキャリアパスポートの効果的な活用方法を検討し実践する。</p>
担当	総合部/学級指導係	
いじめへの対応		<p>①生徒と教職員の信頼関係構築のため、学級担任、保護者、生徒との相談活動を年2回以上、面談を年2回(7月・12月)実施する。</p> <p>②いじめの未然防止や早期発見・対応のため、教育相談アンケートを年2回以上実施する。また、「横浜プログラム(Y-Pアセスメント)」を活用し、学年・学級の状況に応じた支援を行う。</p> <p>③いじめの再発防止に向けて、いじめ防止対策委員会を月1回以上開催し、認知された案件の経過確認を丁寧に行う。</p> <p>④いじめ防止に向けて、いじめを扱う道徳の授業を全校で年2回実施する。全校の人権教育の取組として「人権の木」を作成する。</p>
担当	生徒支援部/いじめ防止対策校内委員会	
人材育成・組織運営(働き方)		<p>①すべての教職員が中期学校経営方針の中期取組目標及び重点取組分野・具体的取組の実現に向けて自らの経験や役割に応じた目標設定を行い、「チーム菅田」として実践し、年度末には評価を行い次年度への改善につなげる。</p> <p>②年に1～2回働き方改革推進委員会を開催して、本校の課題を明らかにし、ワークライフバランスについての意識の向上や時間外勤務の縮減に向けた具体策を設定し全教職員で共有する。</p>
担当	管理職/働き方改革推進委員会	
地域学校協働活動		<p>①「放課後学び舎」(放課後学び場事業)を年間を通じて展開するとともに、生徒の活動に地域コーディネーターとどのように協働できるかを探り軌道に乗せていく。</p> <p>②ブロック3校の地域コーディネーターによる地域学校協働活動に関する情報交換の機会を年2回設定し、各校の活動についての情報共有を行い、さらなる充実のための方策を立案する。</p>
担当	管理職/教務主任	
特別活動		<p>①よりよい学校作りに参画するリーダーの育成に向けて、生徒会活動を通して主体的に課題を見いだし解決するための話し合いを重視した学級活動を展開するとともに、実践的な内容のリーダーズ研修会を実施する。</p> <p>②集団において自己の役割を果たし多様な人々と協働して主体的に取り組む力や人間関係を形成する力を育てるために、「協働的な学び」を大切にした学校行事の計画・実施及び検証を行う。</p> <p>③横浜子ども会議で決定したスローガンを達成するため、教職員・保護者・地域と連携して、子どもからの自発的な挨拶につながる相互交流を深める。</p>
担当	特別活動部	
ICTを活用した教育		<p>各分掌と協力し、組織的・包括的なICT教育の充実を図る。</p> <p>①見通しをもって情報活用能力を育むことのできるよう、学習指導部の情報・視聴覚担当が中心となり、「情報活用能力体系表」の活用とアセスメントを行う。</p> <p>②「個別最適な学び」の実現を目指して、特別支援コーディネーターが中心となり、横浜どこでもスタディの推進に取り組む。</p> <p>③「協働的な学び」の実現を目指して、研究・研修部が中心となり、一人一台端末の活用方法の研究と研修を行い、授業実践の共有を行う。</p> <p>④ICTコーディネーターを中心に、道徳において、情報モラルに関する授業を各学年1回以上行うことや、講師による講演やワークショップを年1回行うことを計画的に取り組み、生徒の情報モラルへの意識づけを行うとともに、日常的な指導につなげる。</p>
担当	情報管理係	
特別支援教育		<p>①全ての教職員が特別支援教育の目的や意義、障害に関する知識や配慮等を理解し、適切な指導及び必要な支援を行うことができるよう、全職員対象の校内研修を年1回以上行う。</p> <p>②生徒のニーズに応え、学習を保障する場としてのキャベツルームを設置し全職員で対応する。</p> <p>③「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」を適切に作成し活用する。特別支援委員会はそのための支援・協力を行う。</p>
担当	特別支援委員会	